

## 1. 授業評価アンケート

昨平成17年度より授業評価アンケートを大幅改訂したので、平成17年度データを出発点として今年度の比較を開講科目がほぼ同じである前期に焦点を当てて行うこととする。

### ①前期アンケート回収率

平成18年度実施分より回収率の集計も追加されたが、それ以前は回収数しか分らないので、集計結果は次の通りとなる。

平成16年度	回収数	256
平成17年度	回収数	231
平成18年度	回収数	198

回収率 62%

大雑把にみて回収数が減少傾向にあり、今回回収率も62%と余り高くはない。回収率50%未満の科目が数科目あるので、教員による回収努力をはかるべきであろう。

### ②集計結果の概観

アンケートは、

- (1) 授業の知的価値について3項目
- (2) 担当教員について5項目
- (3) 講義技術について5項目
- (4) 全体的評価・満足度について3項目
- (5) 担当教員のオプション2項目
- (6) 科目の特徴について4項目

の6大項目、22項目にわたって質問が設定されている。(1)～(4)大項目では「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5点評価尺度による回答であり、5点に近い方が満足度が高い。

個々の科目毎の集計は後述の通りであるので、ここでは専攻全体の傾向を大雑把に把握すると、次表の通りとなる。

	4, 5点の肯定的評価の比率 (%)	
	平成18年度	平成17年度
(1) 授業の知的価値	82.8	73
(2) 担当教員	86.8	81
(3) 講義技術	81.3	73
(4) 全体的評価・満足度	82.1	78

どの項目をみても平成18年度は満足度が向上しており、QBS教員の努力又はFDアンケートの努力促進効果が伺われる。

上記評価項目の中で特に肯定度の低い項目は、

- (3) 講義技術 における

「学生は授業のディスカッションに参加することを奨励された」 68.0% であるが、これに関しては個々の教員の授業方針も含め更に慎重な検討が必要であろう。

### ③自由記入欄の概括

まず、「この授業/教員について、最も良かった点」では、

「講義の設計が論理的/体系的」	17件
「講義資料が有益/ビジュアル/分かりやすい」	17件

「話し方のうまさ/分かりやすさ」	15件
が上位3項目であり、一方	
「この授業/教員について、最も改善が必要な点」では、	
「資料が読みにくい/分りにくい」	12件

「講義の時間管理」	10件
「ディスカッション/プレゼンの時間が少ない」	9件

が上位となっている。

その他「ケースを入れて欲しい」6件、「より実践的・具体的な内容にしてほしい」6件なども見られるが、いずれも個々の授業科目毎に教員がよく考えるべき点であり、いちがいに記述結果を鵜呑みにするべきものではなかろう。

次に、「他の科目との内容重複」調査について、

「組織マネジメント/人的資源管理」の重複がたとえば14件と群を抜いて多いが、このうち10件が視点の相違と重複に肯定的であり、さらに開講科目全般での重複も含め対処の必要があるほどの重複とは思われない。

さらに、「その他」自由記述では、「興味ある、有意義な授業」など肯定的意見が合計29件出されている一方、「踏み込んだ話が聞きたい」5件、「もっと時間/コマ数が欲しい」3件、「授業方法/担当者の変更を望む」3件が記述されており、慎重な検討が必要である。

## 1. 授業評価アンケート

前期の場合と同様後期の場合も平成17年度と平成18年度の年度比較を行うこととする。

### ①後期アンケート回収率

平成18年度実施分より回収率の集計も追加されたが、それ以前は回収数しか分らないので、集計結果は次の通りとなる。

平成16年度	回収数	176
平成17年度	回収数	211
平成18年度	回収数	245

回収率 65%

大雑把にみて回収数は増加傾向にあり、今回回収率は65%と今年度前期よりは向上した。ただ、前期と同様回収率50%より低い科目が数科目あるので、教員による回収努力をはかるべきであろう。

### ②集計結果の概観

アンケートは、

- (1) 授業の知的価値について3項目
- (2) 担当教員について5項目
- (3) 講義技術について5項目
- (4) 全体的評価・満足度について3項目
- (5) 担当教員のオプション2項目
- (6) 科目の特徴について4項目

の6大項目、22項目にわたって質問が設定されている。(1)～(4)大項目では「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5点評価尺度による回答であり、5点に近い方が満足度が高い。

個々の科目毎の集計は後述の通りであるので、ここでは専攻全体の傾向を大雑把に把握すると、次表の通りとなる。

	4, 5点の肯定的評価の比率 (%)	
	平成18年度	平成17年度
(1) 授業の知的価値	86.6	80
(2) 担当教員	90.0	83
(3) 講義技術	83.7	81
(4) 全体的評価・満足度	87.4	78

どの項目をみても平成17年度後期に比べ平成18年度後期は満足度が向上している。

さらに、科目が相違はするが、平成18年度前期と比べても後期は大きく向上しており、改善効果は顕著である。

上記評価項目の中で特に肯定度の低い項目は、前期同様

- (3) 講義技術 における

「学生は授業のディスカッションに参加することを奨励された」 72.3%

であるが前期(68.0%)ほど低くはなく、これに関しても個々の教員の授業方針も含めた慎重な検討が必要であろう。

### ③自由記入欄の概括

まず、「この授業/教員について、最も良かった点」では、

「説明の仕方が具体的/具体例が豊富で興味深い」	19件
「話し方のうまさ/分かりやすさ」	15件
「ディスカッションやプレゼンが有益」	13件
「講義資料が有益/ビジュアル/分かりやすい」	11件
「教員が熱心/丁寧」	11件

が上位5項目であり、一方

「この授業/教員について、最も改善が必要な点」では、	
「ディスカッション/プレゼンの時間が少ない」	7件
「説明が不十分で理解できない」	5件
「資料が不適切」	5件

が上位となっている。

次に、「他の科目との内容重複」調査について、

「アカウンティング/財務会計」の重複が9件、「国際マーケティング/マーケティング戦略」の重複が6件と上位をしめる。前期と異なるのは、前者の重複に対し否定意見「重複している、アカウンティングを先に」が6件、後者に対しては「英語になっただけ、高度な内容にして欲しい」が2件出されていることである。対処を考える必要があると思われる。アカウンティングに関しては、「ファイナンシャル・リスク/アカウンティング」及び「アカウンティング/企業財務」の重複に関しても否定的な回答が出されている。

さらに、「その他」自由記述では、前期と異なり、「価値ある」、「MBAらしい」講義であったなどの肯定的意見ばかりが合計22件出されていた。

### 3. 修了時アンケート（44通回答(全員回答)）

アンケートは、

- (1) 経済学研究院2年間の総合評価について6項目
- (2) プロジェクト演習の評価について7項目

の2大項目、13項目にわたって質問が設定されている。それぞれの項目について「1：全くそう思わない」～「5：非常にそう思う」の5点評価尺度による回答であり、5点に近い方が満足度が高い。

個々の集計は後述の通りであるので、ここでは評価全体の傾向を次表の通り大雑把に把握する。

否定：1, 2点の否定的評価の比率 (%)

肯定：4, 5点の肯定的評価の比率 (%)

	否定	肯定
<b>(1) 経済学研究院2年間の総合評価</b>		
① 教育内容は全体として期待通りであった。	0	79
② カリキュラム体系は満足すべきものであった。	5	73
③ 教育方法は適切なものであった。	0	84
④ 授業環境は満足すべきものであった。		
④-1 講義室、諸設備（ハード面）	25	43
④-2 運営、サービス（ソフト面）	16	52
⑤ 教員の指導は全体として十分であった。	0	95
⑥ 総合評価として2年間の就学に十分満足している。	0	96
平均	8	87
<b>(2) プロジェクト演習の評価</b>		
⑦ 演習内容、方法、プロセスに十分満足している。	2	84
⑧ 演習結果の出来映えは満足すべきものである。	23	55
⑨ 演習遂行努力は十分であった。	7	80
⑩ 指導教員の指導内容は的確であり、演習を円滑に遂行できた。	0	93
⑪ 指導教員の対応は綿密、丁寧であった。	0	96
⑫ 論文審査、発表会のあり方や結果に対し満足している。	9	75
⑬ 総合評価としてプロジェクト演習に十分満足している。	0	80
平均	6	80

まず、回収率は、修了式直後にアンケートを実施したので、100%となっている。次に、5点評価尺度による評価結果は、QBSの2年間の成果についてもプロジェクト演習の評価についても上記一覧表の通りかなり肯定的な評価となっている。ここから読取れる大学側での注目項目は、ハード、ソフトの授業環境改善及びプロジェクト論文審査・発表のあり方の再点検であろう。

さらに、自由記述の結果は、後述のデータ編にまとめられている。但し、インフォメーション・ボードによりアンケート記述を丁寧、詳細に依頼した割には、自由記述件数が少ないようと思われる。記述には肯定的評価が多いが、敢えて特徴のある（どちらかというと否定的な）意見を列挙すると以下の通りである。

#### （3）経済学研究院2年間の総合評価（自由記述）

- ① 教育、授業内容

教員により授業内容、質の違いが大きい。（3件）

アクロスの教室が狭い。（2件）

プロジェクト演習の負担が大きい。（2件）

- ② カリキュラムに関し今後開講すべきだと思う科目

英語での講義科目。(4件)  
セールスマーケティング・営業関係科目。(3件)  
法律科目。(3件)  
会計科目。(3件)  
MOT科目拡充。(2件)

③ 時間割、講義スケジュール

集中講義の案内が遅い。(6件)  
時間割の変更は不便。(2件)  
集中講義では身につかない。(2件)  
外部講師の集中講義は有益。(2件)

④⑤授業環境(ハード、ソフト)

自習室(PC)の整備が必要。(8件)  
アクロス教室は不適切。(2件)

⑥ QBSの2年間で得られたもの

人的ネットワーク。(4件)  
多様な視点。(3件)  
論理的思考。(3件)

⑦ 今後必要な改善

優秀な教員の確保。(2件)  
教育環境の改善。(2件)

(4) プロジェクト演習の評価(自由記述)

⑧ 演習内容

肯定。(6件)  
必修ではなく選択にすべき。(2件)

⑨ 教員の指導

肯定的記述のみ。(5件)

⑩ 発表会

肯定。(3件)  
発表時間の柔軟な設定や拡大。(3件)

⑪ 全体

負担が大きい。(3件)  
評価基準が分りにくい。(2件)

以上のなかで、大学側の直ぐに対処できそうな項目は、

集中講義スケジュールの早期案内。

自習室(PC)の整備。

であろうか。